

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、さぎの宮圏域） 第3回会議 議事録

開催日時	令和5年2月10日（水）9時30分から11時10分まで
参加者	委員：9人 事務局：1人 その他：10人（高齢者福祉課：1人、東区長寿保険課：2人、協働センター2人包括支援センターさぎの宮：2人、浜松市社協：3人）
場所	笠井協働センター講座室
内容	<p><b>【開会】</b> 会長より開会の挨拶</p> <p><b>【前回の振り返り及び今回の進め方について】</b> 事務局より前回の振り返り及び今回の進め方について説明。</p> <p><b>【情報提供】</b> 事務局より、各圏域の取り組み内容についての情報提供を行う。</p> <p><b>【意見交換会】</b></p> <p><u>委員からの意見</u> [長上地区] ＜おてつだい長上の活動の実績を振り返る＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除や病院付き添いの依頼があった。草取りの依頼もまた増えてくる。受付をしていて感じることは、息子夫婦2階に住んでいるが協力してもらえないので、「手伝ってもらいたい」という相談がここ2ヶ月くらい増えている。病気で動くことができず、最終的におて長に依頼してくる。助けてあげたいという思いはあるが、2世帯の方は丁寧にお断りしている。</li> <li>・支援員のできることを、得意なことを把握して依頼していくことが大事だと思っている。登録だけで内容を相談すると「難しい」と言われることもある。登録している人には活躍してもらいたいと思っている。</li> <li>・民生委員としては地区社協の活動に協力していきたいと思っている。地域福祉として考えたら、民生委員、地区社協ともに対象者は同じ。地域の方たちにも理解してもらえるといい。</li> <li>・主な対象は高齢者。同居している家庭が問題になってくる。難しいのは対象とすることかどうか。</li> <li>・「地域の困った人のお手伝いをする」というのがそもそもの始まり。実際行ってみるといろんな事情がある。</li> <li>・経済状況に配慮してもいい。余裕があればシルバー等を勧めてみる。訪問した際にいろんな事情を聞き加味する。</li> <li>・以前、他地区の家事支援で、家事支援で行う判断が難しいケースが増えてきて、家事支援がストップしてしまうことがあった。地域の困りごとをどうやって拾っていくのか、もう一度考えてみてはどうか。</li> <li>・デイサービスの職員を退職して時間ができたと登録してくれた方がいる。できる内容も活動する人によって負担感など感じ方が違う。</li> </ul>

- ・支援員たちの声をできるだけ聞く機会を設けるのが大事だと思う。不満をためないように、意見を言い合い改善しようとするのが大事。
- ・活動者の喋り会、思いの座談会を設け、同じ思いを共有できればいい。
- ・年数回、リーダー会や合同会がある。これから会議にかける議題だが、リーダーと定期的に集まって話をするとも考えている。

＜もう一つの議題、集いの場所の可能性は？＞

- ・居場所の一つとしてサロン。長く活動しているところはグループができ上がっていて、そこに新しい人が入っていくのは難しい。地域の公会堂で、鍵を開けてお茶の用意をしておくだけ・・・等の居場所があるといい。そこにお年寄りだけではなく、子どもを連れてくるなどがあるといい。人が来なければ当番だけおしゃべりしているだけでもいい。
- ・他区の紹介の時にいくつかあった。鍵の管理だけ、卓球台だけおいてあって自然に集まってくる、そういうところがある。
- ・今までもサロンは運営している。それなりに目的を持ったサロンを運営しているが、その地域の人でしか使えない。地区社協は全体を対象としてやっている。地域で少人数できっかけは何でもいいので集いの場があるといい。家の前に椅子だけ並べて、おしゃべりに集まっている、そういう目に見えないものも実はある。

#### [笠井地区]

＜会長よりだるま会の進捗状況の報告＞

- ・社協から市内の実践事例の紹介があった。気になること・困っていることに対して、地域で無理なくできそうなことを協議体で話し合っている。家事支援は地域をよくしようとする取り組みの一つで、笠井地区は紆余曲折、行ったり来たりしているが、だるま会を立ち上げようとしている。
- ・皆で助け合い、明るい地域になるように思っている。ボランティアは当初の19名から28名に増えた。
- ・先日の東区協議会福祉委員会の中で、積志地区の家事支援の報告があった。ボランティアが当初60名集まったが、実際活動しているのは20名、小回りのきく団体の方がよいと声をかけてもらった。これから笠井地区が進んでいくにあたり、課題が多く出てくると思う。社協・包括など関係の組織に相談しながらやっていきたい。見切り発車は厳しいのではないかという声もあるが、やってみたいと思う。2月27日（月）「だるま会」発足に向けての会を開催予定。
- ・規約の中で、対象者は困っている人、支援を必要と判断した方。子育て支援については、他地区の情報収集をした内容を踏まえて、親が同席する場合のみ対応していくことを規約にあげた。利用料は30分300円、ゴミ出しは1回100円。自宅に入ってゴミを集め、ゴミ袋に入れることまではしない。ボランティア登録票について説明。やるからにはボランティアさんに気持ちよくやっていただきたい。利用する人の登録をしておかないと何かあったときに困る。支援を受ける人の実態は聞き取りしていきたい。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年度には遅くともスタートしたい。だるま会支援事業開始式を令和5年4月下旬～連休明けに考えている。それぞれの自治会によって受け止めがバラバラのため、自治会への説明をしていく。</li> <li>・課題解決学習、福祉分野でいうと事例研究を必要に応じて行っていく。また、他地区の報告の中にあった、中学校に出向いていくのはよいと思った。</li> <li>・東高校ボランティア部がある、笠井自治会長が声かけをして協働センター祭りの準備片付けをやってもらった。</li> </ul> <p><b>【各地区からの報告】</b> 意見交換会の内容を各地区より発表した。</p> <p>[長上地区]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おてっだい長上の実績、4月から1月20日までの実績を報告。 それぞれの町内でリーダーがいる。実績としては、春頃から件数が上がってきたが、コロナ禍で訪問を中止したため件数は減った。 これから笠井地区が家事支援を始めていくにあたり、おて長の困りごとの話をする。高齢者がメインであるが、結果的には困っている人ならいいのではないかという意見もある。しかし、思いが全員違う。十人十色。現実的に断った例もある。家の中では若い人がテレビをみているのに依頼があり、非常に悩むところではあるが、困っているのであれば支援してあげればいいのかという意見もある。</li> <li>・家事支援以外では、地域の人が気軽に集まれる場所があると良いという意見が出た。</li> </ul> <p>[笠井地区]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・笠井地区は生みの苦しみに、2月末にボランティアを集めての会議を行う。参考にしたいと思ったことは、中学生や若いボランティアを巻き込んで、レクチャーしたりすることも、将来的に有効ではないかと思った。 笠井はこれからがスタート。ボランティアが困ったときに、どこに相談したらよいかははっきりさせておくことが必要という意見も出た。</li> </ul> <p><b>【令和5年度第1回協議体の開催について】</b> 令和5年6月中旬頃を予定</p> <p><b>【閉会】</b> 副会長より閉会の挨拶</p>
<p>今後の見通し等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度から笠井家事支援だるま会が始まる。開始後も活動内容や支援者の様子、活動を通しての困り事等、気にかけて把握していきたい。同じく取り組んでいる長上地区とも意見を出し合い共有をして情報交換を行い、有意義な会議を目指していく。</li> <li>・また「地域の集いの場」についても協議を深めていく。</li> </ul>